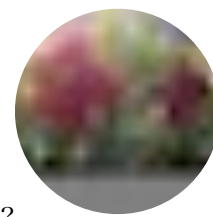




# 月歩学歩



「げっぼがっぼ」と読んで欲しいが、その意味は、「月日を歩き、学んで歩く」ということ？

## 特集

### 「春季オープンキャンパス終わる」

【3月21日にスタートした本年度の春季オープンキャンパスが、6月22日開催の第6回をもって終了しました。本学では、授業の様子や実際の学生の姿に直に触れることで、生の明德短大を感じ取ってもらうことを大切にしています。今回は、学生スタッフの活躍を含めて、春のオープンキャンパスの様子をご紹介します。】

(安恒 克則)

2-4P



## その他の内容

### キャンパス・ライフ

- ◆ 障がい者スポーツ大会について (山野 良一) 5-6P
- ◆ 1年生 総合演習での企画から「学び合いのためのプログラム②」 7-9P
- ◆ そでの保育園でのボランティア (小久保 圭一郎) 10P
- ◆ 34回生同窓会に参加して・・・ (金 瑛珠) 11-12P
- ◆ 学生生活から 12-13P

### 関連フィールドから

- ◆ 明德土気保育園にゆこう (小久保 圭一郎) 14-15P



## 特集 「春季オープンキャンパス終わる」

記：安恒 克則

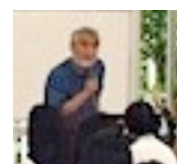
3月21日にスタートした本年度の春季オープンキャンパス（開催日3/23・30、4/20、5/26、6/8・22）が、6月22日開催の第6回をもって終了しました。今後は、夏休み以降、夏季オープンキャンパスが開催されますが、参加者は徐々に高校2年生に移行し、高校3年生対象の取組は、本学独自の入学制度である「個別評価による入学」につながる公開授業へと重心を移していきます。そこで、今回は、学生スタッフの活躍を含めて、春のオープンキャンパスの様子をご紹介します。

本学では、他学のオープンキャンパスのように、学校の概要や理念、施設設備などの紹介を行うだけでなく、授業の様子や実際の学生の姿に直に触れることで、生の明德短大を感じ取ってもらうことを大切にしています。また、その後の公開授業やスタートアップ・カレッジと合わせて、2年間という短い短大生活をより充実したものにするための導入教育となるようにと考えています。このため、しっかりとした模擬授業を行う他、学生による手遊びなどの実演を組み込んで、本学での学びの内容・方法をしっかり伝えると共に、学校見学の案内役も務める在学生スタッフから、できるだけ、その生の声が高校生に伝わるように配慮してい

ます。具体的なオープンキャンパスのプログラムは以下のとおりです。

### 《オープンキャンパスのプログラム（6月22日実施分）》

- 学長挨拶
- 模擬授業 「子どもの育ちの姿を観る」  
石井准教授
- 在学生手遊び実演
- 学校説明
- 入学制度説明
- 学内見学



3月からの延べ参加者数は199名（2年生以下の参加者を除く）



で、対前年3名増とほぼ昨年並みの実績となりました。特に進路意識が高まった時期である6月22日は参加者が85名に上り、非常に活気あふれるオープンキャンパスとなりました。以下に、写真で当日の様子をご紹介しますと共に、参加者の感想や本学への印象を掲載します。



## 《参加者の声》

- ・ 子どものことをいろいろな面で見  
て、考えて、いい学校だと思いま  
した。
- ・ 先生が生徒のことをしっかり考え  
ている。
- ・ 明德短大に入りたいという気持ち  
が強くなりました。
- ・ 少人数なので、生徒1人1人をき  
ちんと見ている印象。のびのびと  
した学校だという印象でした。
- ・ 実習や体験が多くて、とても実践  
的な学校だと思いました。子ども  
と触れ合える場所もあり、環境が  
とても良いと思いました。
- ・ 先生も、学生さんも親切だった  
し、とても来てよかったと思いま  
した。
- ・ (明德短大は) 教員と生徒が一緒  
に学ぶ場所。
- ・ 先生や学生さんがとても優しく、  
楽しく学生生活が送れそうだと思  
いました。
- ・ すごく学びたいと思える学校でし  
た。
- ・ 生徒を中心と考えていて、とても  
いい学校だと思った。
- ・ 子どもがすごく身近にいるんだと  
思いました。
- ・ 実際の学校生活を分かりやすく丁  
寧に説明してくれ、わかり易かつ  
たです。
- ・ 自然豊かで、子どもたちと一緒に  
楽しくできそうな感じでした。
- ・ 先生達の明德に対する気持ちがす  
ごく伝わってきて本当に良い所だ  
なと思いました。
- ・ 学生の皆さんがいきいきしてい  
て、良い学校なんだなと思いました。
- ・ 熱心さが伝わった。
- ・ 保育士や幼稚園教諭を目指す人  
にとって、とても環境も教育方針も  
良い学校だと思いました。
- ・ 学生の方の対応がとてもいい  
でいいと思いました。
- ・ 1つ1つにちゃんと思いが込めら  
れているのが、いいなと思いま  
した。
- ・ 保育者になるために、子どもとの  
関わりだけでなく、保護者とも自  
然に話をしたりする機会があつた  
りして、とてもいいと思いま  
した。
- ・ 先生への相談がとてもしやすそう  
な学校だと思いました。
- ・ 他の学校に比べて、授業や実習が  
充実していると思いました。ま  
た、先生と生徒の距離が近いと思  
いました。

本学のオープンキャンパスでは、教職員と共に在学生のオープンキャンパス・スタッフが中心的な役割を担い、その運営を支えると共に、本学の学びを伝える上で重要な役割を果たしてくれています。6月22日のオープンキャンパスは、2年生が教育実習中のため、大半が1年生スタッフとなりましたが、2年生の取組を引き継いでスタッフとしてしっかり活躍してくれました。そんなオープ

ンキャンパス・スタッフの感想を以下にご紹介します。

《オープンキャンパス・スタッフの声》

【44017 上野 実穂さん】

オープンキャンパスのスタッフとして参加して、昨年、私が見学したときのことを思い出しました。明德短期大学ってどんな学校なんだろう？とわくわくすると同時に、すごく不安でした。しかし、スタッフの先輩が明るく優しく接してくれ、緊張が和らいだことをよく覚えています。そして今、自分がその先輩の立場に立っているということが、少し不思議な感じでした。私も、見学に来てくれた高校生たちの緊張を少しでも和らげ、楽しんでもらいたくて、一生懸命頑張っていました。どれだけ役に立てたかは分かりませんが、最後、多くの高校生が笑顔で帰っていくのを見て、達成感でいっぱいになりました。次回オープンキャンパス・スタッフとして参加するときも頑張りたいです。

【44026 小山内 ともみさん】

私は、今日オープンキャンパスのスタッフをやって、自分が高校生だったときのことを思い出しました。初めてオープンキャンパスに来た時に、先輩が手遊びを教えてくれて、すごく緊張が和らぎました。今、その立場になってみて、どのようにし

たら楽しんでもらえるのだろうと考えました。私が見ていた先輩は、とてもニコニコして楽しそうだったので、私も今日は笑顔で手遊びをやりました。私の前に座っていた二人組の女子生徒は、すごく楽しそうにやってくれたので、すごく嬉しかったです。私は、もっとたくさんの手遊びを覚えて、伝えていきたいと思いました。今日は、自分も楽しむことができたので、良かったです。

【44095 西納 怜奈さん】

オープンキャンパス・スタッフとしての参加は今回が2回目でしたが、1回目は2年生の先輩方が中心になってほとんどのことをやってくれました。しかし、今回は先輩方がおらず、ほぼ1年生だけで、すべてをやらなくてはならないので、とても大変でした。校内を案内する時にも、どんな案内のしかたをすれば分かりやすいのか、どんな説明をしたら明德について分かってくれるのかを考えながら案内したのですが、とても難しいと感じました。説明している時に、去年、私が参加した時のことを思い出してとても懐かしく感じました。これからは、オープンキャンパスの他に公開授業もたくさんあるので、高校生に分かりやすく、きちんとした説明ができるように頑張りたいと思いました。

## キャンパス・ライフ

### 障がい者スポーツ大会について

記：山野 良一

5月26日（日）、千葉県総合スポーツセンターで行われた「平成25年度千葉障がい者スポーツ大会」に、1・2年生合わせて約160名もの学生が、ボランティアとして参加しました。

1年生は、来年2月から3月にかけて、障がい児(者)施設での保育実習を経験します。しかし、彼らはそれまでの人生で障がい児(者)に触れ合うことはほとんどなく、みな施設での実習に不安を抱えています。この障がい者スポーツ大会への参加は、1年生の社会福祉や保育実習指導Iの授業の一環としていますが、学生のそうした不安をできるだけ減らすことをねらいのひとつとしています。しかし、そうしたねらいとは別に、大きな副産物を1年生たちは得て帰ってくるようです。

どんな副産物なのか、1年生の感想から少し見てみたいと思います

#### Aさん

特に、100m走の中でも最も印象に残った場面があります。それは、車いすに乗った人たちによる100m走の一場面です。スタートして速い人はどんどん先に行ってゴールをしたのですが、1位の人がゴールをしたところ、

まだ30mくらいのところで頑張っている人がいました。他の人たちが次々とゴールをしていき、とうとう最後の一人になってしまいました。それでもまだ50mくらいでした。その人は、時間をかけて精一杯車いすを前に進めていました。諦めることなく最後まで一生懸命に頑張っていました。観客席からは「頑張れー！頑張れー！！」とその人を応援する声がたくさん聞こえました。その声援を力に必死で前に進んでいた姿に、私は胸が熱くなりました。かなりの時間をかけてその人がゴールをすると、観客席やフィールドからは拍手がおこりました。会場が一丸になったような気がしました。その他の競技でも選手たちは、最後まで一生懸命に頑張っていました。とても感動しました。

#### Bさん

私が担当したのは「決勝・審判」という直接関わることが多い仕事でした。・・・（中略）・・・50m走から始まり、その時点で私はもう驚きました。走っている姿はとても凛々しく普通と何も変わりませんでした。ものすごく速いし、顔も真剣。声に出して「すごーい」と自然に言っていました

た。

ゴールしてからは、子どものように体全体で嬉しさを表現したり、くやしきのあまり涙を流している選手もいました。

その時、私は「あんなに素直に『嬉しい』とか『悲しい』とか今の私には表現できるだろうか。」と考えた時に、「嫌できない。私があんな風に感情を表に出したときは何年前だろう。」と、私には持っていないものをこの人たちが持っていることに気づきました。

### Cさん

昼休み、指導員のSさんと様々な話をさせていただきました。最初は、学校の事、自分の身の上話と雑談をしているだけでしたが、Sさんが不意に「実は私も障がい者なんですよ」と口にしました。77歳ということで、年齢的には多少はゆっくりと動くSさんでしたが、外見上もここまで接してきた感じも健常者としか思えず、私は驚きました。するとSさんは「何十年前にね、心臓のバイパス手術、ほら陛下も手術されたやつ。あれをやったんですよ。」「そうしたら運動機能だけじゃなくて、頭にも少し障がいが出て、その時に障がい者手帳をもらったんですよ」と自身が内部障がい者であることをお話ししてくれました。Sさんは続けて「本来ならもう10年も前には

この世にはいなかったでしょうね。でもこうなったら色々やってやろうと思って様々な事を始めたんですよね」とご自身がテニス、バトミントンといった運動だけでなく、書道や陶芸といった色々な事を始めてみた事を話していただきました。「初めのうちはね。こんな体だからテニスもバトミントンも疲れちゃって1試合もたなかったんだ。でもねどンドンやっていくうちに1試合できるようになっていったんだ」と、「そしたらね、新しいバイパスできちゃったんだ！」と自分の体がスポーツのおかげで自己修復した事を話していただきました。その話を聞いて私自身も思わず泣きそうになる程感動してしまいました。

このように、障がい者の方々の競技に打ち込む姿や喜びの表し方、それを応援する人々の温かさ、さらには障がい者の方の個人の人生にまで触れることができ、多くの学生たちがそれまでの障がい者に対するイメージを少し変化させることができたようです。

5月の日曜という遊ぶには最適な日なのですが、そんな貴重な一日のボランティア体験を基にして、学生たちは少しずつ保育者として脱皮しようとしていたのだと思います。

## 1年生 総合演習での企画から 「学び合いのためのプログラム②」

今年度の「学び合いのためのプログラム②」は、総合演習の「保育者にとって必要な力の基礎を体験しながら修得していく」ねらいと絡めながら、学生たち自身が企画・運営するスポーツ大会を実施しました。

チーム決めと種目案を出すところまでは教員が進行を務めましたが、後は全て、実行委員の学生たちが授業外の時間を使って進め方を考え、授業内ではマイクを持って進めていきました。そして130名全員が係（審判、音響等）を担い、全て、学生が話し合いながら決めていきました。

学生が自分たちで考え、進め、行ってきた学び合いのためのプログラムです。先日ふりかえりも行い、この『月歩学歩』の原稿も、広報係の学生たちが書きました。次ページより、お読み下さい。（記：田中）

チーム名	カラー
すの一まん	青
揺さぶるパイナポー	黄
Green	黄緑
チーム でん☆DEN	水色
さまーず	赤
どんぐり	紫
team BANSHU	オレンジ
The Merry Christmas	白



日程	内容
5/15 (水) 総合演習	スポーツ大会に向けて チーム分け、チーム名決め・種目案・実行委員決定
5/22 (水) 総合演習	種目決定、係担当、 及びチームカラー決め
5/29 (水) *授業外	蘇我JFE体育館への下見 (実行委員のみ)
6/5 (水) 総合演習	当日の流れ確認、トーナメント決め、各係当日の動きの打ち合わせ
6/11 (火) 学び合い②	最終打ち合わせ (チーム+係) 注意事項の確認
6/12 (水) 学び合い② 「スポーツ大会」 蘇我JFE体育館	9:00 開会式 9:30 ①しっぽとり ②バレーボール 12:00 昼食 13:00 ③バドミントン ④15人16脚 ⑤ドッジボール ⑥大縄 16:00 片付け 16:30 閉会式・表彰 17:00 解散
6/19 (水) 総合演習	ふりかえり

### スポーツ大会実行委員

今村 彩香	岩瀬 健
杉本 渉	西澤 円花
松本 遙	松山 楓
森 誉太	吉澤 睦

## スポーツ大会をふりかえって

記：スポーツ大会広報係

新田 雅幸・村瀬 亜美・鈴木 利美・野村 楓・久保谷 紀・  
加藤 綾乃・並木 詩織・前澤 祐菜・新沼 風香・船木 理奈



<はじめに...>

今回は初めて、自分たちで企画して行う行事でした。スポーツ大会本番の何日も前から、実行委員の方たちが遅くまで残って、種目のルールなどを決めたり、先生の代わりに話を進めたり、まとめたりしてくれました。

私たちが楽しくスポーツ大会に参加できたのは、全体を仕切る実行委員がいたからです。前もってスポーツ大会に向けての準備を夜までしてくれたり、当日、時間内に全ての競技が間に合わない事に気づくと、急遽競技の時間を短縮してくれたり、その場に合わせた正確な判断（対応）をしてくれたおかげで、参加者に不快な思いをさせることもなく、時間も、決められた時間の中で全ての競技を無事に終えることができました。

閉会式後、サプライズで実行委員全員に、学年全体で感謝の気持ちを伝えた時に、泣いている実行委員、喜んでいる実行委員、いきなりで驚いている実行委員の姿を見て、感動してしまいました。みんなのありがとうの気持ちが伝わり、それを大事に心で受けとってくれたように感じました。

しかし、「楽しかった!」「またやりたい!」という声があがる一方、多くの反省点もあげられました。

ルールの把握の問題、しっぽ取りのコートがどこまでか、行動範囲の説明、理解が浅かったりなどの問題、開会式・閉会式でのマナー…。他にも多くの意見があがりました。

特に反省すべき点は、係の役割に関してでした。自分の係について何を理解していない、自分の役割を忘れ、楽しむ事ばかりに集中してしまう人などもいたために、スムーズに競技が進まなかったということでした。

それぞれがそれぞれの競技・応援に楽しく参加できたのは、とても良い事だと思いましたが、楽しむ事だけではなく、自分に任された役割をしっかりと責任をもって果たすということも、「学び合いのためのプログラム」の中で大切な事であると思っていたので、最後まで役割を果たせなかった人もいたということが、残念でした。

これらの反省点を活かし、次回につなげていけたらと、ふり返りを通



して思いました。

スポーツ大会を通して、“勝つ喜び”、“負ける悔しさ”、“団結力”、そして“絆を深める”という大切な事を学ぶことができました。

最後に、実行委員のみんな、素敵なスポーツ大会をありがとう！

**\*スポーツ大会の良かった点\***

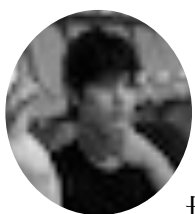
- ・team BASHUがTシャツをそろえていてとても良かった。
- ・Greenチームはほとんど練習できなかったが、大縄で90回以上跳べて驚いた。
- ・BGMの評判がとても良かった。踊って楽しんでいる人も多かった、など。

**\*改善点\***

- ・全チームがTシャツの色をそろえたら良かったかも。
- ・どの種目でも練習不足だったから怪我をする人がいた。練習時間をとった方が良い。
- ・バドミントンのように少人数で、しかも経験者が有利なものよりも、もっと全体で楽しめる競技の方が良いと思った。

**実行委員（森 誉太さん）への  
インタビュー**

スポーツ大会の企画・運営は、私にとって貴重な経験になりました。



本番の2週間以上前から、8人の実行委員で、どうすればより楽しくできるかを相談し合い、実際に現場を視察に行ったりして、

具体的に話し合いを進めてきました。

しかし、本番でもすべてが計画通りにいったわけではありません。

1学年130人をまとめるということと、限られた時間の中で、本当に時間通りに進めるということの難しさを実感しました。競技中の時間にも、実行委員で話し合いをこまめにして対応していきました。そのせいか、急ぎ足になってしまった競技があったことや、けが人を出してしまったことなどが反省点として挙げられます。

ですが、最後には多くの人から、楽しかったと言ってもらえて、頑張った良かったと感じました。

こういった、計画して実際に運営するということは、遠足やお泊まり会などの行事がある保育の現場でも必要になることです。ただのスポーツ大会ではなく、すべてが明德の「学び」につながっていると思うので、後期にまたあるのであれば、今度は新しい人たちに企画運営をしてもらいたいと思います。



## そでの保育園でのボランティア

記：小久保 圭一郎

今年度、保育方法演習<各論>G（通称：小久保ゼミ）は、「人の役に立つ喜びを味わう」ことをテーマにして、主に保育現場でのボランティア活動を行っています。4月27日に引き続き、5月25日（土）、小久保ゼミ、及び深谷先生、安恒先生と鶴田先生が、そでの保育園を訪れました。今回お手伝いさせて頂くのは、園庭および園舎の環境整備です。さっそく各部署に分かれ、それぞれ整備に入ります。

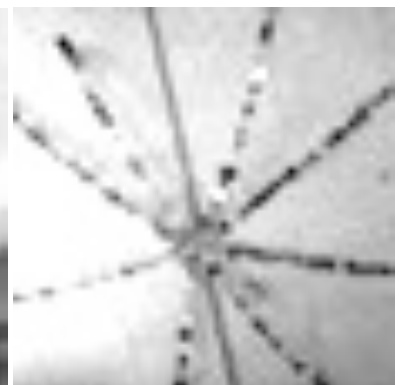
女子学生2人は、先生方と一緒にランチルームのペンキ塗り。U田さんは高校時代、部活でペンキ塗りをよくしていたそうで、今回職人技を見せてくれます。N田さんは前日、学友会室のペンキ塗りを夜遅くまでしていました。



◀教員の安恒さんは、園庭の木の選伐を担当します。鬱蒼と茂っていた木がみるみるうちに伐採され、畑にも光が差し込むようになりました。さすが園芸部顧問です。

▶M坂くんと教員の鶴田さんは、乳児庭の環境整備。学友会担当コンビ、息ピッタリです。

▼1年生が「あそび基礎演習（造形表現）」の授業で作った作品も保育室に飾られました。



この活動後、短大に園長の野村先生がいらっしゃり、お礼を言ってくださりました。この一言がとっても嬉しいです。また行きます！

## 34回生同窓会に参加して・・・

記：金 瑛珠



6月8日、明德の講堂にて、34回生の同窓会が行われ、教員として参加させて頂きました。2月初めに旧・ゼミ生であり、今回幹事を務めたSさんから連絡を頂いて以来、とても楽しみにしていた同窓会！集まった70名の卒業生たちは、全然変わらない部分と月日を重ねて変わった部分とが相まって、とても輝いていました。小さな子どもを連れて来てくれた人、大きいお腹で来てくれた人、素敵なお会いを待っている人、保育の仕事をしている人、様々な事情で今は保育の仕事をやめている人、それぞれがそれぞれの道を歩んでいましたが、一人ひとりがとても良い表情をしていて、笑顔で短大に戻ってきてくれたことがとてもうれしく、共に幸せな時間を過ごさせて頂きました。

当日、講堂の壁には近況報告の手書きのメッセージカードが飾られていました。不思議なもので、その字を見た瞬間、保育内容を担当していた卒業生

が当時どんなレポートを書いていたか、どんなことに悩みながら頑張っていたのか、その記憶が蘇り、懐かしい思い出話も出来ました。嬉しいひと時でした。

わたくしごとですが、34回生は、私が結婚した年に一年生だった学生であり、授業の中でサプライズの結婚祝いをしてもらい、妊婦だった時にはわくわく研修で韓国に一緒に行き、出産後はゼミ生が家に遊びにきてくれ、卒業パーティーには三ヶ月の長女を抱いて見送りに行った代の卒業生でした。34回生に限らず、その年その年で学生に対して様々な思い出や思い出があります。

今、学生であるみなさんは、7～8年後、どんな日々を送っているのでしょうか？そして、どんな表情で短大時代を振り返ることになるのでしょうか。先の話に思えるかも知れませんが、まずは充実した“今”を過ごすことで、その

先がやってくるのだと思います。卒業後も、一緒に語り合えることを楽しみにしていますね！

なお、当日は離職された先生方も多く参加され、当時の教職員・学生が久々に集い、楽しい時間を共有することが出来ました。一人ひとりの中に、“明德で共に過ごした2年

間”という大切な過去がしっかりと存在していて、だからこそ輝いている“今”があって、そこからそれぞれが未来に向けて、「これからもがんばろう！」と思える時間になったように感じられました。私もみんなに負けないように頑張らねば、と心に誓った有意義な一日でした！

## 学生生活から

### サークル紹介

先月号に引き続き、学生のサークル活動をご紹介します。

#### 園芸

園芸部は主に花や野菜の種を植えて、苗を育てる活動を主にしています。また育った野菜で料理をしたり、学園祭では自分たちで育てたミニトマトの苗を販売しようと思っています。今は玄関前の花壇を花でいっぱいにしていく活動をしているので、興味のある方は是非見てください。（記：高岡あゆみ）

#### アニメ文化

今年度から、アニメ文化サークルは立ち上がりました。活動内容としては、絵を描いたり、ライトノベルの賞

に応募してみたり、それぞれ部員がアニメのDVDを持ち込みそれを観賞したり、と、様々です。同じ趣味、話題を共有したい方、また興味のある方は是非、火曜の4限終了後の221教室、もしくは1年の杉本に声を掛けてください。（記：杉本 裕樹）

#### バレーボール

毎週月、水曜日の19時～21時まで活動をしています。私たちバレーボールサークルは、楽しく、面白く、元気良くがモットーで活動を行っています。初心者、経験者関係なく十分に体を動かす、サークルメンバー全員青春の涙をながしております。（記：津川 徳政）

### 軽音

毎週水曜日と木曜日の17時から20時に活動しています。活動中は音楽室でゆるい空気が流れています。ほぼ全員が初心者なので、誰でも気軽に足を運べると思います。絶賛ドラム募集中です。運が良ければ、熱唱している小久保先生に出会えるかも...!?

水曜・木曜、音楽室で待っています！（記：長谷川 祐司）

### バンド

ボーカル2人とドラム、ピアノのシンプルな構成でくんでいる女子しかない女性バンドです！火曜と金曜に練習しています。毎週楽しく和気あいあいと活動しています。気になる方はぜひ！音楽室をのぞいてみて下さい。女性4人で待ってます。（記：浪崎 光子）

### ハモリ場

私たちハモリ場は1年生7人で活動しています。主に楽器を使わずコーラ

スだけで曲を作り上げてハモることの楽しさを感じています。歌が好きという共通点からこのサークルを立ち上げました。ですが、全員初心者でまだ音をとることが難しい面もありますが、パート練や自主練を含めてみんなで協力して練習に励んでいます。今後、行事などで発表できたらなと思っています。毎週木曜日の授業終わりから別館で活動しているので、興味のある人は見に来てください。（記：吉澤 睦）

### バレエ

バレエサークルでは、フロアでのストレッチや柔軟、バーを使った基本的な立ち方や基本動作、ステップを踏んだりジャンプをしたりと、バレエの基本から始めています。まだまだ少ない人数ですがとっても温かい雰囲気です！体が硬い人でも、未経験者でも、男性でも、誰でも大歓迎です！開催日は不定期ですが、掲示板でお知らせします。関心のある方は見に来て下さい。（記：村瀬 亜美）

## 学友会室リニューアル

学友会委員によって学友会室が生まれ変わりました。5月末のある夜、全てのものを外に出して整理したり、壁にペンキを塗り直したりと、遅くまで作業していました。今は定期的にこの部屋でお昼を食べたり、今後に向けて話し合ったりしているようです。





## 関連フィールドから

### 明德土気保育園にゆこう

記：小久保 圭一郎

今年誕生7年目を迎える明德土気保育園。

土気駅から5分程度歩いた住宅街の一面にその園はある。

4年前から2年次科目である保育方法演習のフィールドワーク先として私の担当する学生たちを送り続けているが、できる限り私も同行するようにしている。

授業以外にも何かと理由をつけて園を訪れることも多いが、それは園に行くと「たいへん気分がいい」からである。縁側のある園舎。時間のゆったりとした保育。どれも訪れた人が感じる園の良さであるが、それ以上に私が

「気分がいい」理由が最近わかるようになってきた。それは、園長を始めとして保育士ら自身が「機嫌よく」保育しているから、ということだ。「楽しく」というのとはまた違う感覚である。園の生活の中で困ることや悩みごとだってたくさんある。したがって楽しいことばかりではない。だから必ずしも「楽しそう」にはみえない。しかし「機嫌がよさそう」にはみえる。なぜそうなのか、保育士や子どもたちの

姿を観察しながら考えてみた。

まず保育士がよく笑っている（そうかといって「いつも笑顔」なのではない）。若手保育士も多い園であるが、「私ってつくづくダメな保育士・・・」といじけている様子がない（そうかといって自信満々なわけでもない）。

「保育園ではこうしなければならない」「子どもはこうあるべきである」という当為がない（そうかといって理想や理念がないことは、まったくくない）。

そうした保育士の姿は、自然と子どもにも伝染する。子どもたちは保育士同様よく笑っている（よく泣いてもいる）。「どうせ私なんて誰からも愛されていないし・・・」といじけている子どもがいない（どこでもそんなにいないが）。

子どもは「気分がいい」ことに敏感に反応するものである。保育士が保育園で「機嫌よく」生活していれば、自然と子どもも保育園で機嫌よく生活しようとする。人は「機嫌よく」過ごしている人と一緒にいたいと感じる。機嫌悪い人と一緒にいたいとは思わない

(少なくとも私は)。できることなら、子どもたちには「一緒にいたい」と思われる人に育ててほしい。私はそんなふうを考えている。

その意味で、保育士の仕事はつまり「機嫌よく」保育をすることに尽きる。

話が逸れたが、つまりはそうした「機嫌よく」生活している保育士と子どもたちの空気に触れ、私も「機嫌がよく」なるということである。この「気分がいい」感覚はまた、学生たちにも伝染すると思っている。

これまで私は、担当する保育方法演習における園へのフィールドワークを通してゼミ生が「子どもを理解する」ことをねらいに展開してきた。しかし、園での私が「気分がいい」理由がはっきりしたことで、今年度は「子ども—保育士—ゼミ生—私」が共に「気分がいい」感覚を味わうことをねらいとしてフィールドワークを実施している（保育士の仕事が「機嫌よく」保育することだから）。

フィールドワークといっても基本的には保育ボランティアである。生活にお邪魔するわけだから、園にも「気分がいい」と感じてほしい。そのためフィールドワークでもなく実習でもなく「役に立つことを何かする＝ボランティア」をすることにした。子どもたちの午睡中に清掃や製作など環境整備を

行ない、午睡が明けると降園まで子どもたちと過ごす・・・そんなボランティアを5月中に3回実施した。私を見る限り、ゼミ生たちの表情は学校にいるよりも活き活きとしていて、「機嫌がよく」過ごしているようにみえた。

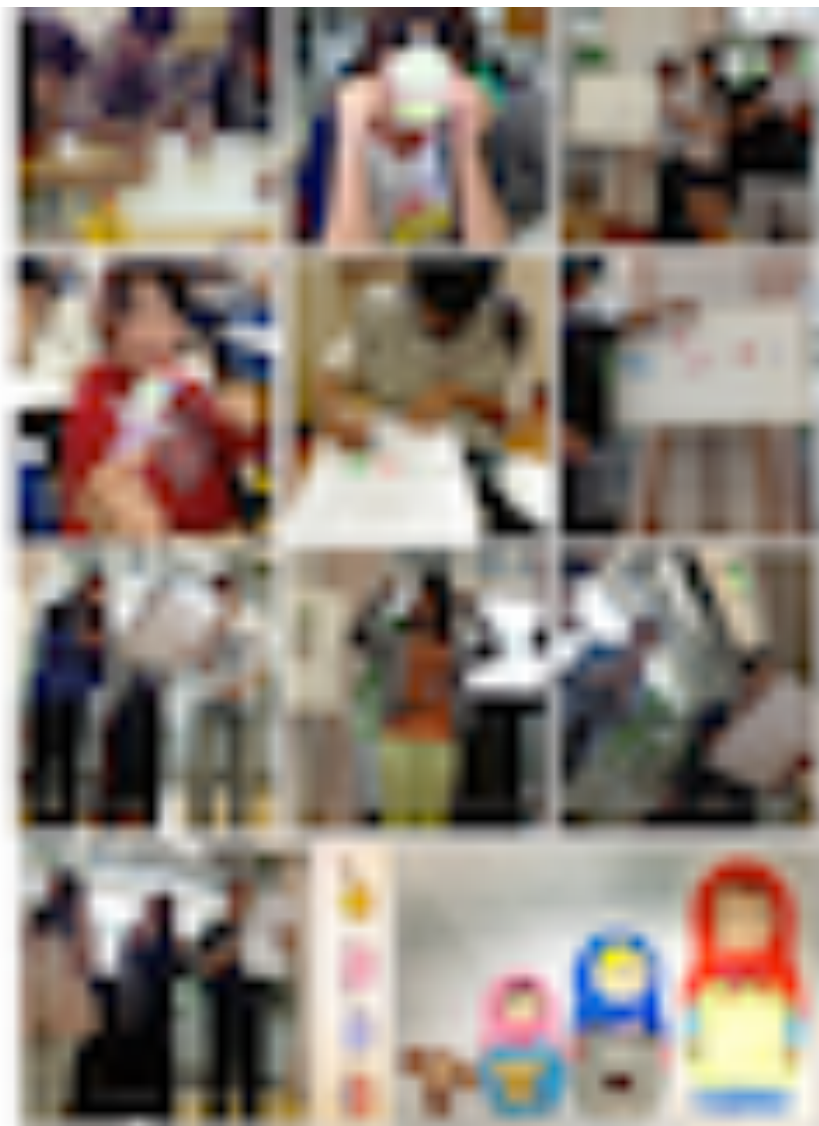
そしてボランティア後、園の保育士からこんな内容のメールをもらった。

「私たち保育士はなかなか日々の保育やらなければいけない最優先事項に追われ、細かいことやもう一步ということに手が伸ばせなかったり、時間に追われてはまた今度になってしまうことが多々あります。今日はとても助かりました。（中略）子どもたちにとっても、学生さんがじっくりと一人ひとりに関わってくれたことで、とてもいい笑顔を見ることができました。このことも実は本当にありがたいことであり、子どもにとっても担任にとっても良い時間となります。」

短大も園もお互いに「たいへん気分がいい」。「総合保育創造組織」はそんな組織でありたい。それは学生にとって保育士にとって、そして子どもたちにとって、いかなる学びよりも教育的価値があると思う。

学生諸君。まずは一緒に明德土気保育園にゆこう。

そこには「機嫌よく」生活する人々が、いる。



## 7月の予定

**7/12+31**

研修生スクーリング

**7/13**

公開授業

**7/16**

教員音楽コンサート

**7/18-24**

オープンカレッジ

**7/20**

公開授業

スターボックスお話ライブ

**7/25-26**

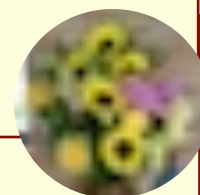
学び合いのためのプログラム  
(1、2年生)

**7/27**

学園祭 めいとく広場

**7/28**

公開授業



発行：千葉明德短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

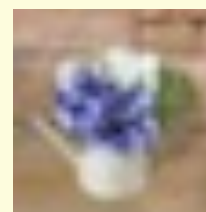
Fax:043-265-1627

e-mail:

[tandai@chibameitoku.ac.jp](mailto:tandai@chibameitoku.ac.jp)

URL:[http://](http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html)

[www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html](http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html)



編集

田中 葵

深谷 ベルタ

鶴田 真二

▲ 「あそび基礎演習」合同授業でオリジナルパネルシアターを作りました。いくつかの作品は、2年生が教育実習に持っていきました。子どもたちの反応はかにかに？2年生が帰ってきたときの感想をお楽しみに！

▶ 宗川さんの活けるお花たちが、毎日玄関で出迎えてくれています。

### 編集後記

今月号は未来の明德生から在學生、そして8年前の卒業生までを扱う盛りだくさんな内容となりました。今回の「学び合いのためのプログラム」で生き生きとした姿を見せた1年生と、教育実習から帰ってくる2年生が、来月は学園祭に取り組みます。準備期間は両学年の「学び合いのためのプログラム」となり、全學生が共にひとつの学園祭をつくりあげます。7月27日、ぜひ足をお運び下さい。(田中)

読者の皆様へ、『月歩学歩』に対するご意見、ご感想をメールにてお寄せ下さい。